

2025年1月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時 2025/1/18 (土) 10:00~16:00

2. 開催場所 アイテックインターナショナル

3. 会員参加者<敬称略> S:オンサイト出席・L:オンライン出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	欠	出島	S	水田	書
山中	S	山口(展)	欠	黒田	S	鈴木	S	池田	S	山口(直)	S	前田	欠	木村	S
北村専務	L														
小西	休	中山	休	李	休	河合	休	則尾	休	杉浦	休	福田	休		

4. 研究会内容

1) 「輪講」 芝野広志 基本機能ハンドブック3章 (出島さん)

第三章 搬送機能を解説した。紙、液体、気体、粉体、情報・データの搬送について記載されていた。併せて初学者向けに数理の裏付けである二乗和の分解を説明した。デジタルデータ搬送に関して搬送周波数を上げると波形がなまり、必要エネルギーが増大するなど貴重な情報を得た。

2) 「講演会」 ロバストパラメータ設計の真意 (関西 太田さん)

現状の直交実験では、技術者が決めたノイズに強いものを選んでいる。
SN比、感度がなだらかで高いところを選択することが未知のノイズに強い
ロバストな条件を探すには直交実験をして感度(平均値)が高くなる条件を探せばよい
PRDでの目的は、正しい要因効果図を求めることではない
確認実験が再現したら、要因効果図が信用できるというのは誤解である
RPDの目的が直近の課題解決(火消し)であれば、SN比の要因効果図を優先する
「想定外のノイズ」に対する安定性を、「想定したノイズ」でチェックすることが、確認実験でのSN比の役割である。
場が変わると言う不特定な外乱があったとしても最適条件が現行条件より優れていることが重要であり、これが確認実験の目的である。
再現性として確認実験の結果、場が変わったとしても最適条件がSN比、感度ともに現行条件より改善していれば、実験は成功したといえる。

3) 事務局連絡

- ・事例テーマ相談:2月 発起人の舟山さんを交えて教材を再検討する
- ・会計:輪講用の本を買っておく(今期の予算で)
- ・講演会招聘:2/8 日産 西野さん 講演 3時間程度(質疑・応答も含む)
交流会予定 横尾さん(西野さんに最終確認)
交流会幹事 水田(欠席:3名 城越さん、鈴木さん、山中さん)
- ・対外関係:2026 業務改善事例発表会とRQESの発表テーマを次回までに持ち寄る
- ・運営体制:幹事 山中さん⇒黒田さん 対外関係の引継ぎは前田さんへ
- ・昼食場所:次回場所検討
- ・輪講:オーケン 大見さんと牧野さんが特定する→舟山さんが伸さんに著作権の確認をする
(次案)標準化と品質管理 ソフトウェア手法
- ・合宿:中部のみで実施予定(11月or12月) ※関西の合同研究会と被らないようにする